



### インタビュー

救急隊員 沼口孝喜さん

Q 冬に多くなる救急内容はなんですか？

A 冬に特に多いのは急性心筋梗塞や脳梗塞です。1年中起こることなのですが、血圧が上がる冬に、特に多く起こります。

Q 駆けつけたらどのようなことを考えて処置を行うのですか？

A 心停止に備えた措置、心電図モニターを準備していざとなったら電気ショックを打てる体制をとって病院に搬送します。また、コンクリートの上に寝かされていると体温が奪われてしまうので、体温が低下しないように気を付けています。

Q 救急救命士と医師の違いはなんですか？

A 医師は、医療行為が全てできるのですが、救急救命士は一部の措置しかできません。具体的には、心停止した方への点滴や、アドレナリンという薬剤を使用することなどです。その他には、呼吸停止の方の人工呼吸をしやすいするためのチューブを入れるなどの措置ができます。

救急隊員 岩井洋子さん

Q 救急救命士では女性が男性に比べて苦勞することはありますか？

A 女性は力の面では不利があると思います。しかし、患者への気遣いや安心感をあたえることは女性にもできます。特に、女性患者には「女性救命士でよかった」と言われたこともあります。

Q 学校で習ったことと現場の違いはなんですか？

A トレーニングでは人形を使うため体の大きさが同じですが、現場で処置を行う相手は体の大きさなど人それぞれです。そういった違いは感じます。

Q 今後女性の職員が増えていると思うのですが、目指している方に一言お願いします。

A 女性消防士は、これから需要が増えていくと思います。体力面だけではなく、きめ細やかなフォローができる女性ならではの視点があると思いますのであきらめないで目指して欲しいと思います。



### オフショット



「顔あげて」の声に顔をあげてしまった大山君



「頑張ります」とやる気満々のメンバー



「疲れた」とぐったりしているロープ渡過後



「スカイツリーも見える」と興奮ぎみのメンバー



ZOOM!

## 八潮高校

### 毎年恒例名物先生インタビュー

岡庭秀明先生

岡庭先生は、今年で教員2年目です。顔に似合わずくまのプーさんが大好きで、生徒が親しみやすい先生です。

Q サッカーを始めたのはいつですか？

A 小学校1年生の秋(7歳頃)からはじめました。

Q なぜ教師になったのですか？

A 友達に「教師向いてるんじゃない？」と言われて教師になりました。



## コラム



### 八潮南高校

#### 大規模改修

八潮南高校では、昨年30周年を迎えたことを機に、今年度の夏季休業期間を使って普通教室棟の大規模改修を行いました。それにより、校舎の外壁をベージュからホワイトに化粧直しをして、校舎内には腰板を設置しました。以前と比べて全体的に暖かい雰囲気になりました。

その他にも、校舎内の塗装、バリアフリートイレの新設などをしました。見ていてとても気持ちの良い校舎になりました。



市民の皆さんも機会があったら、ぜひ見に来てください。

今まで新聞の編集なんてしたことありませんでした。どうしたら自分たちの感じたことが伝わるかを考えながら一生懸命作業しました。

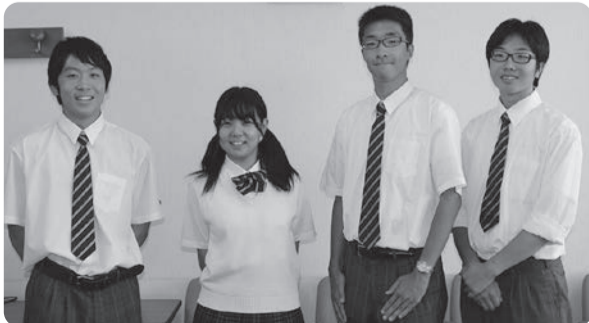


右から、2年 山本 圭佑、2年 大山 陸、2年 渡邊 樹莉、2年 工藤 あかり

## 八潮高校 編集後記

広報やしおの編集作業に関わらせていただき、貴重な経験をさせていただきました。制作していく中で、なかなか文章やアイデアが思いつかず大変でしたが、八潮高校、八潮南高校両校の力を合わせて良い紙面が出来上がったと思います。

ロープ渡過・放水体験は思ったより体力を使う大変な訓練でした。はしご車体験は市内を空から見渡すことができ感動しました。今回取材に行き、改めて市民を守る消防・救急の仕事の大切さを知ることができました。今回学んだことを生かせる場面があったら、ためらわず行動に移したいと思います。消防署、市役所、そして広報やしおを読んでくださった市民の皆さんありがとうございました。



右から、3年 鈴木 暉、3年 宮下 涼介、2年 森田 蒼生、2年 福田 惇史